

経 済 港 湾 委 員 会 記 録 (No.9)

1 日 時 令和7年7月17日(木)
午前 9時59分 開会
午前11時28分 閉会

2 場 所 第3委員会室

3 出席委員(9人)

委 員 長	渡 辺 修 一	副 委 員 長	三 宅 まゆみ
委 員	菊 地 公 平	委 員	上 野 照 弘
委 員	香 月 耕 治	委 員	富 士 川 厚 子
委 員	大 石 正 信	委 員	井 上 しんご
委 員	松 尾 和 也		

4 欠席委員(0人)

5 出席説明員

公営競技局長	春 日 伸 一	公営競技局次長	濱 田 孝 洋
地域貢献推進担当部長	柴 田 憲 志	総 務 課 長	篠 原 まり香
競輪事業課長	亀 石 貴 治	ボートレース事業課長	合 六 薫
地域貢献室長(事務取扱)	柴 田 憲 志		外 関係職員

6 事務局職員

委員会担当係長 伊良皆 公 一 書 記 西 嶋 真

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	公営競技を活用した観光振興と地域貢献について	公営競技局から別添資料のとおり説明を受けた。

8 会議の経過

○委員長（渡辺修一君）開会します。

本日は、所管事務の調査を行います。

公営競技を活用した観光振興と地域貢献についてを議題とします。

本日は、公営競技局による地域貢献について、当局の説明を受けます。総務課長。

○総務課長 それでは、公営競技局による地域貢献について御説明させていただきます。

タブレットの2ページをお願いいたします。

公営競技局では、令和元年度から10年間の北九州市公営競技事業経営戦略を策定し、その中で、小倉競輪、ボートレース若松は事業の収益金で将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していきますという企業理念を掲げ、事業に取り組んでおります。

この企業理念を実践していくために、経営の基本となる売上げ、運営財務、地域・社会貢献の3つを柱とした目指すべき将来像を定めました。

将来像の1つ目は、選ばれるレース場です。売上げを確保していくためには、車券や舟券をファンの皆様に買っていただくなどが大変重要になります。また、中央団体から高いグレードレースの開催場として選ばれることが重要です。そのため、選ばれるをキーワードに事業に取り組んでおります。

2つ目は、健全な運営、信頼されるレース場です。本市の収益事業としての責務を果たすため、安定的かつ継続的に収益を上げていくことを目指しています。そのため、健全、信頼をキーワードに、業務運営、財務運営を行っております。

3つ目は、親しまれるレース場です。将来にわたり競輪、ボートレース事業を持続させ、企業理念を実践していくためには、事業のイメージアップと市民理解の促進が欠かせません。そのため、親しまれるをキーワードとして、地域貢献、社会貢献につながる事業であることを積極的に発信するとともに、気軽に来場し、楽しめる場所とすることに努めております。この経営戦略では、前期、後期のそれぞれ5年間の収益金と一般会計繰出金の中期目標を定めております。前期は、収益金、一般会計繰出金ともに目標を達成しており、現在、後期目標である収益金

530億円以上、一般会計繰出金260億円以上の達成に向け鋭意取り組んでおります。

3ページをお開きください。北九州市の競輪、ボートレース事業の車券、舟券の発売状況でございます。発売額は一時期低迷していた時期もありましたが、近年は大変好調な状況が続いており、令和6年度は競輪事業が476億円、対前年度比11.5%の増、ボートレース事業が1,355億円、対前年度比4.8%の増となっております。

次、4ページをお開きください。続きまして、公営競技局における地域・社会貢献についてでございます。取組として大きく分けて3つございます。

1つ目は一般会計への繰り出しで、競輪、ボートレース事業の収益金から一般会計へ繰り出し、市民生活の充実、利便性の向上等に寄与しております。

2つ目は地域貢献事業の開催で、競輪、ボートレース事業が地域・社会貢献につながる事業であることを積極的に発信し、イメージアップを図るとともに、地域の方に親しまれるイベントなどを開催しております。

3つ目は親しまれるレース場づくりで、レース目的以外でも子供から大人まで誰もが気軽に来場し、楽しめるレース場づくりを進めております。

5ページをお開きください。一般会計への繰出金の推移です。昭和38年の北九州市発足以降、令和7年度予算の繰り出し予定まで含めると総額2,082億円となります。繰出金ができない時期もございましたが、平成20年度に繰り出しを再開し、令和3年度以降は毎年50億円の繰り出しを行っております。令和7年度予算では、北九州市ボートレースによる未来のまちづくり投資基金のために200億円を繰り出しており、合わせて250億円の繰り出しを予定しております。

6ページをお開きください。一般会計への繰出金は、財政・変革局が市全体の事業の中で調整し、様々な施策の経費に充当されております。令和7年度予算では、子育て環境や教育の充実などにつながる事業の財源として50億円が活用されております。

また、令和7年4月に財政・変革局により北九州市ボートレースによる未来のまちづくり投資基金が創設され、令和7年度から令和9年度については、市民ニーズが特に高い子供、若者が多く利用する施設整備などに活用される予定です。

7ページをお開きください。

地域貢献事業の開催について、まずは地域貢献のシンボリックな事業といたしまして、北九州メディアドームにおける子ども食堂どーむきっちん、ボートレース場のクレカ若松における、くれかきっちんを地域の団体や企業などの皆様とともに月1回開催し、御利用の皆様からも大変御好評をいただいているところでございます。

8ページをお開きください。令和6年度にボートレース若松では体験型英語学習施設KGGと連携し、様々な英語体験ができるイベントや、小学生を対象とした夏休みの宿題お助け教室などを開催いたしました。

9ページをお開きください。北九州メディアドームでは、GI競輪祭や競輪夏祭りの開催に合わせ、バドミントンの潮田玲子さんやサッカーの中澤佑二さんなど著名な元スポーツ選手による教室を開催いたしました。

また、今年3月に開催したK.フェスティバルでは、一青窈さんなどの人気ミュージシャンによるコンサートやファミリー向けのイベントなどを行い、延べ約1万2,000の方に御来場いただきました。ファンの方のみならず、多くの方々に足を運んでもらえるよう、引き続き地域の方々にも楽しんでいただけるイベントを開催していきたいと考えております。

10ページをお開きください。続きまして、親しまれるレース場づくりとして、ボートレースパーク化の取組を御説明いたします。

ボートレース業界では、中央団体が地域に開かれたレース場とするため、子供たちが遊べる

施設や広場を整備するボートレースパーク化を推進しており、ボートレース若松においても、東スタンド棟前の駐車場を活用し、来場のきっかけやイメージアップを図るための地域貢献エリアを整備しております。整備内容は、ボートレース業界において統一的に整備を推進しております、地域に開かれた憩いとにぎわいの空間であるグリーンと、子供向けの遊戯施設であるモーヴィとなります。総事業費は概算で18億6,000万円ですが、このうち中央団体であるボートレース振興会から2億9,000万円が助成されます。事業スケジュールは、令和4年度から令和5年度に基本設計、実施設計を行い、令和6年度から今年度にかけて工事を行っており、今年度末の完成を予定しております。

11ページをお開きください。グリーンについては、芝生広場をはじめ小学校高学年を対象とした遊具エリア、シニア層の健康維持増進につながるフィットネス器具をそろえたフィットネスエリア、自然に触れる遊びや活動が体験できる自然体験エリアを設けます。

また、休憩や飲食スペースを備えたコミュニティスペース棟も整備いたします。

12ページをお開きください。モーヴィにつきましては、ボートレース業界と遊びの専門企業ボーネルンドの協働により、体遊びを通して子供の成長を応援することをコンセプトにした遊び場で、未就学児から小学生を対象にしております。ボートレース若松では、屋外エリアと屋内エリアを整備いたします。

これら地域貢献エリアの整備により、ファンの方のみならず、子供からシニア層まで誰もが気軽に訪れることができる開かれたレース場を目指すとともに、市内外から多くの方に御来場いただけるにぎわいの場になればと考えております。

いずれにしましても、公営競技における地域貢献、社会貢献は、私たち公営競技局の経営戦略における企業理念であり、将来にわたって事業を継続していくためには、必ずや行わなければならない使命であります。

公営競技局としましては、収益の確保に努め、事業の収益金で将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していきたいと考えております。

引き続き本常任委員会の委員の皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げ、公営競技局による地域貢献について御説明を終わらせていただきます。

○委員長（渡辺修一君） ありがとうございます。

ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁を願います。

それでは、質問、意見はありませんか。上野委員。

○委員（上野照弘君） 地元若松区の競艇場が市の発展に大変に寄与されておられること、地元として非常に誇りに思う施設であります。

若いときから考えますと、若松競艇場というのは本当にイメージが相当よくなってきたなと感じています。僕が子供の頃は、競艇場というと、ちょっと周辺であつたりとか、やっぱりあ

んまり雰囲気がよくないというようなこともあったんですけども、近年本当に人々に愛され、多くの人たちに愛される施設にどんどん変わっていったらいいなと思います。

地域の行事ごとであっても、地域貢献室の皆様方が一生懸命イベント等のお支えをしていただいている状況もありますし、今年は200億円もの大きなお金を出していただいて、学校のトイレであつたりとか、エアコンであつたりとか、まあすごいなと思っています。

これ1つ質問ということなんですけれども、例えばトイレを洋式化にする、エアコンをつける、そこにこれはボートレースからのという表示はされるのかということをもっと聞きたいと思っています。されないのであれば、ぜひ、やっぱりそうしてほしいと思いますし、小倉南区の小学校、中学校の子供たちでも、若松のボートレース場がこんなところまで支援してくれているんだというのをやっぱり知ってほしいなというのがあります。

要望なんですけれども、市内全域にそのいい影響が広がるということはすばらしいことなんですけれども、やっぱりまずは若松区、地元の人たちに愛されるような施設にこれからはなっていくと思います。

大きな公園ができて、御年配の方々が健康づくりのために、ちょっとしたフィットネスができたりということで、今若松区は、おでかけ交通お買い物バスというのを交通局が運営してくれて、山手から下に下りるようなことをやっているんですけども、ぜひ競艇場にも行きやすいような交通手段を競艇場からも支援をしていただけないかなと思います。ちょっとそれについてお答えを。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 今2点ほど御質問をいただきました。

一般会計のほうに繰り出しをして、それをトイレとかエアコンに使われるということで、我々としても収益自体が一般会計でどういったものに使われるのかということをもっと皆さんに周知していきたいと考えておりますので、そういうところに表示できるかということについては、今教育委員会含め、財政・変革局等と調整をしております。できればそういう表示をしていただきたいなと思っておりますので、今後も積極的に調整していきたいなと思っております。

あと競艇場に来やすいというところがあるんですけども、今交通局とあと西鉄バスをお願いをして、ファンバスという、門司港とか、あと小倉とか戸畑とかから若松競艇場に来るバスを運営しているんですけども、ただ交通で使うという方々のためにというのはちょっと我々の中ではなかなか難しいかなとは考えているんですけども、競艇場とあと競輪場に関するファンの方の事業とかであれば積極的に実施していきたいなと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 地域貢献室長。

○地域貢献室長 収益金が生かされていますよという表示の事例が2つほどございますので、紹介をさせていただきます。

1つは、門司区の市立吉野保育所の建て替えの際に、工事現場にこの事業には小倉競輪とボ

ートレース若松の収益金の一部が活用されていますというパネルを表示したという経緯がございます。

それから、もう一点、八幡東区東田のスペースLABO科学館に、入り口に入って振り返るとプレートがありまして、その中に、このスペースLABOの整備等に小倉競輪、ボートレース若松の収益金の一部が活用されていますというプレートが今掲示をされております。御参考までに紹介させていただきます。

○委員長（渡辺修一君） 上野委員。

○委員（上野照弘君） ありがとうございました。

ボートレース若松も若松区にあって、しっかり市の未来につながる収益を生み続けてほしいとやっぱり思いますし、若松区にある交通局は、今減便したりとか、稼ぐために一生懸命頑張っておられる。上手に交通局を支えられる公営競技局、交通局を支えることのできるボートレース若松、そのボートレース若松が地域交通を支えるようなことになれば、地域の人たちも競艇場のおかげで私たちは年を取っても、免許を返しても安心して暮らせるんだなというところも大きな地域貢献の一つになると僕は思いますんで、ぜひそういった視点も持っていて、これからも稼ぎ続けていただきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 地域貢献事業を行うためにも、その原資となる売上げ、収益が上がらなければ地域貢献事業はできないと思います。

そのためにも、発売額、売上額の経営状況はどうなっているのか、これは重要な問題だと思います。

また、モーターボートの売上金が高水準で続いていると。この要因。

競輪については、476億円で11.5%増と。モーターボートについては、この5年間高止まりして、1,355億円で4.8%増えているということですけども、高止まりしている。今後どのように増収、収益を上げていく、そういう分析はされているのか、まず聞かせてください。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 まず、ボートレースの売上げが高水準で続いている理由につきましては、コロナ禍で売上げが急増いたしました。理由としましては、コロナ禍に宣伝広報に注力して、有名タレントとタイアップする、また、話題性のあるCMを展開していることですか、また、ボートレースは6艇で展開していますので、他の公営競技よりも予想がしやすく、また、一番有利な内側の1号艇の勝率が圧倒的に高いということで、予想がしやすいということが売上増につながって高水準を維持したのではないかと考えております。

あと、委員御指摘の売上げが高止まりしている要因なんですけれども、今年度に入って業界全体の傾向を見ますと、通常のレースは微増傾向、そしてSGレース、グレードの高いレースは昨年度よりも大分高い売上げは記録はしているんですけれども、売上げが鈍化している理由

はちょっと今のところ明確には把握できておりません。

今後売上を維持、向上させるには、コロナ禍以降についた新しいファンを引き止めながら新しいファンも獲得していき、また、継続的にボートレースを楽しんでもらうことが重要かなと思っています。

今年度完成予定の地域貢献型施設モーヴィ、グリーンがございますので、ふだん来場することがない若年層とかファミリー層に来ていただいて、またイメージアップを図って新しいファンを獲得して売上向上につなげていきたいと思っています。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 地域貢献事業を進めていく上でも、その原資となる発売額、売上額をどう増やしていくのかと。一定高止まりしているというのは分かりますけど、それをどう増やしていくのかというところの全国的な傾向も示されましたけども、コロナ禍で一定増えているというのはありますけども、そういう人気のある選手が出たりとか、SGレースとかという形で出ているけれども、そういういろんな工夫も必要になるんじゃないかなと思います。

メディアドームの償還に対して競艇事業から補填していると聞いています。毎年どれぐらいこの償還に対して補填をしているのか。また、メディアドームの償還が終わると聞いていますが、まずその状況について聞かせてください。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 メディアドームの償還に対してボートレース若松から出資をして償還をしています。償還額というのは毎年ちょっと凸凹があって、令和5年度で言いますと10億円少しぐらいをボートレース若松からいただいてメディアドームの償還に充てております。あと令和8年度にメディアドームの償還が終わる予定としておりますので、それに向けて収益確保して確実にメディアドームを償還していきたいと思っています。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 多額のメディアドームの建設の償還に対して、競艇から多額の補填をしていただいているということで、令和8年にはそれが終わるということなんで、そうすると、今までメディアドームの償還にボートからお金を出していただけで、その分が減れば当然市への繰出金、地域貢献事業とか増えると思いますけど、その辺の見通しはありますでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 確かにメディアドームに渡していた分の償還というのはなくなるのは事実なんですけれども、やはりボートレース若松においても、今建っている西スタンドとか、そういったところが老朽化してきておりますので、そういったところの整備であったりとかというのは今後ちゃんと積み立てていきたいと思っていますので、メディアドームに繰り出しがなくなるからといって、すぐに一般会計にというのはなかなか難しいかと思っています。けれども、今経営戦略でボートレース若松から50億円を一般会計に繰り出すというふうな計画を

立てておりますので、そちらについてはしっかり繰り出しができるように取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 競艇のスタンドの改修とか何かが増えてくるということなんで、単純に一般会計への繰り出しが増えるということではないというのは分かりましたけども、当然大変な借金を抱えてメディアドームを建設されておるわけで、その償還が終わるんだったら、モーターボートと同じように競輪についても、こういう目標を持って、どういうふうに市に繰り出していくのかというのは持つべきだと思いますけど。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 経営戦略の中で競輪に関しても定めておりまして、令和8年度に償還が終わりますので、その中で令和8年度から4億円ずつ一般会計に繰り出していくというような目標を立てておりますので、それに沿うように頑張っていきたいと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） これまでなかなか競輪では繰出金を、多額の金額はこれまでやってきているんですけども、メディアドームの建設によって多額の負債があったということなんですけども、それで地域貢献事業で様々出されていますよね、子ども食堂だとかイベントだとか、パーク化とかというのをされていますけども、これまでそういう地域貢献事業についてきちんと市民のニーズを受けてやったのかとか、また、これまで地域貢献事業でやったことについてきちんと検証されているのかと。この地域貢献という名前の下で、言い方としては渡しただけであって、本当にそれが地域貢献になっているのか、市の事業に貢献されているのかというのがちょっと私は疑問なんですけど、そのような検証はされているんでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） 地域貢献室長。

○地域貢献室長 地域貢献事業の検証という点でございます。

まず1つ、イメージアップに向けたイベントの実施につきましては、市の戦略等を踏まえて、そして子育て環境や教育の充実ということを柱に事業を組み立てております。

個別の事業をやった際にアンケートを取りまして、この事業に参加してどうでしたかとか、公営競技のことについて知っていましたか、それは役に立っていると思いますかとか、市の個別事業に使われていることを知っていますかとか、そういったアンケートも取りながら、そういったことをフィードバックして事業の組立てに生かしているというところでございます。

ですので、人気があれば、ニーズが少ないなと思えばそこは見直していくということになります。

それから、様々なイベント等に広告を出しておりますが、これもまず選定する段階で十分な露出があるのか、広報手段が多様であるかといった広告効果を見極めた上で、そして終わった後には参加者数が見込みどおりであったかとか、場合によってはそこでサンプリング調査をや

りまして、公営競技のことを理解していますかとか、今言いましたような個別の事業に使われていたこと知っていますかというようなことも併せて聞いております。そういったことを踏まえてより効果的な、効率的な広報に取り組むとともに、いただいたアンケート結果等を踏まえて、今後の展開に生かしていきたいというようなことで、そういった意味での検証ということを行っていると考えております。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 地域貢献事業と言われるならば、多額のお金を投入してやっているわけだから、そのことが本当に市民のニーズにかみ合っているのかと、また、本当にそれが地域貢献に役立っているのかというのをやっぱり透明化してほしい。

市の内部では分かっているんでしょうけど、それがやっぱり数値的なものとか、我々議員の中に本当にこういう形で貢献されているんだというのが分かるようにやっぱり透明化するように努力していただきたい。

先ほど言われたように、地域貢献事業と言われるならば、私は若松の市営バス、これが独立採算制によって非常に経営困難に追い込まれていると。どういう手段で使っているのかということで言えば、財政・変革局に聞くと、まちづくり投資基金だということで、第1条には町の成長及び発展に資する公共施設の付加価値を高める整備事業や公債償還とか書かれているんです。だから、企業会計同士でできなければ、何らかの形で、例えばラッピングバスについては出しているということなんですけども、おでかけ交通だとか、やっぱり競艇に行くにしても、また、買物にしても病院に行くにしても、高齢者がそういうふうな非常に困難な状況に追いいられていると。これこそまさに私は地域貢献じゃないかと思うんですけど、そういうことについて財政・変革局なんかと交渉して話し合ったりしているのか、そのことについてまず教えてください。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 交通局支援みたいところになるかとは思いますが、委員のおっしゃったとおり、それぞれの企業という形になるので、直接交通局を支援というのはなかなか難しいのではないかと考えております。

一般会計に50億円繰り出しをさせていただいておりますので、その中で財政・変革局が予算等含め決定しておりますので、我々からこういうものに使ってほしいというようなことはなかなか言えなくて、財政・変革局で決定をしておりますので、ちょっと我々がこうしてほしい、ああしてほしいという決定権がないので、申し訳ないんですけどもなかなか言えないところがございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） この基金の中の第1条には、付加価値を高める整備事業と書いているわけですが。確かにトイレの洋式化、また、エアコン設置、それでエレベーター、これは付加価値

を高めていると思います。

しかし、同時に市民の足である公営バス事業だとか、また、それができなければ、一般会計でやっているおでかけ事業だとか、そういうことについても、財政・変革局に聞いたら、何も公営競技局からは要望がありませんみたいなことを言われたんで、やっぱり地域貢献と言うならば、多くの市民の皆さんが困っている、特に若松なんかでも、市営バスでは非常に経営困難に陥っているという状況なんで、ぜひそういう要望は財政・変革局に伝えていただきたいと思いますけど。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 我々でなかなか決めるということができないので、財政・変革局にそういう御要望があったということはお伝えさせていただきたいと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 地域貢献と言うならば、市民の足の確保、このことについても最も地域貢献につながると思いますので、委員会でこういう要望もあったということを伝えて、ぜひ若松の皆さんを含めて考えていただきたいと思います。

それと同時に、避難場所の設置だとか、また、一方でギャンブル依存症の方が大変おられて、私どもに相談に来られた方も、お金をもらってもやっぱりすぐにギャンブルに使ってしまうみたいなことを言われたりするんですけど、その地域貢献ということとギャンブル依存症というのは相入るものなのか、その検討とかはされていますでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 そうですね、ギャンブル依存症というのは、我々の公営競技局、あと業界全体としても大事な課題だと思っております。

近年オンラインカジノとかも注目されておりますので、やはりギャンブル依存症というのはしっかり対策していきたいと思っております。

小倉競輪とボートレース若松でも相談窓口の設置であったりとか、本人とか家族が申出をすれば入場できないとか、ネット投票とかが制限されるという取組であったりとか、中央団体でもギャンブル依存の回復支援センターとかのコールセンターを24時間で設けたりとかというような対策はしております。

ただ、我々も売上げという視点とギャンブル依存というところが、どちらも大切だと思っておりますので、やはりギャンブル依存にのめり込んだりしないような形で我々も今後取組を進めていきたいと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 大石委員。

○委員（大石正信君） 一方では経営、売上げをしていくという反面、そういうギャンブル依存症によって身を持ち崩していくという状況もありますので、今のギャンブルがネット投票に変わってきているという問題もあって、一回はまり込んだらめり込んでしまうという傾向も非

常に増えてきているというのが近年の状況ではあると思うんで、そういう問題もマイナス面として捉えて、ぜひ、全市的な形で対応していただきたいということを要望しておきます。終わります。

○委員長（渡辺修一君） 富士川委員。

○委員（富士川厚子君） 数点質問をさせていただきます。

今年度も200億円を繰り出していただき、本当にありがとうございます。先ほど上野委員も言われていましたけど、私もああいうトイレとかエアコンに若松ボートって何か提供みたいな感じで入れていただけたらなと思っております。もしそれが本当に難しければ、それもするのは当然したほうがいいと思うんですけど、学校の保護者とかに、改修が終わった後に、今回学校のトイレがこんなにきれいになりました、エアコンが設置されました、これは若松ボートから協賛金をいただいてできた事業ですということを、学校ごとに、学校から保護者に発信していただく、それも一つ大切なことかなと思いますので、これは一つ要望させていただきたいと思います。

あと、今回新しくできる親しまれるレース場のグルーンとモーヴィということで、すごくいいことだなと思うんですけども、これはボートレース場にこういうのをやっていくというのが何かあると聞いているんですけど、競輪場にはないのかということと、あとこれ芝生の広場が1万平米近くあって、今もうこの夏、年々もう毎年暑くなって、今年は類に見ないほどやっぱり暑くて、じゃあ来年はこれ以上気温が下がるかといったら、考えられないことで、見てみると日よけがないというか、避難場所がコミュニティースペース棟というのはあるんですけど、これ1万平米あるこんな端の遊具エリアから、ちょっと体調が悪いなと思ったときにここまで移動するって結構な時間がかかるのかなと。1周歩いたらどのぐらいかかるのか分かりませんが、日よけとか何かベンチとか、あとスプリングラーみたいな夏に水を出したりして、駅とかしているんですけど、特にグルーンのほうですかね、そういうところをつくったかないと、結構高齢者とかでもフィットネスエリアってさっき説明で言われていて、体調悪いときにコミュニティースペースまで駆け込めるかって、駆け込めないと思うんです。何かしらそういう暑さ対策というのは考えられているのか、考えてなければしていただきたいなと思います。

あと遊具に関しても、先日からも皿倉山の滑り台とかで結構問題になっておりますけれども、遊具の安全性に関してはしっかり担保していただきたいなと思っております。

ちなみにこのグルーンとモーヴィというのは、入場料とかというのは考えているのか、それも教えてください。

あと競輪場です。親しまれるレース場ということで目指すべき将来像ということで書かれているんですけども、やはり競輪場はコンクリートで、中に入るとやっぱり何か怖いというのがちょっと私の印象であって、成人式とかのときは、ばあっと明るくなっているから、人も着物着ていたりしてあれなんですけど、もうちょっと明るい、何かちょっと若松ボートとまたち

よっと雰囲気は違うのかなと思いますし、何か壁に明るい壁画をすとか、何かしらちょっと親しみやすさというのは考えられているのか、あれば教えてください。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 競輪事業課長。

○競輪事業課長 2点お答えさせていただきたいと思います。

ボートレース業界のようにパーク化といったことを競輪業界としてやっていないのかという御質問でございますが、現在のところボートレース業界のように競輪業界全体でパーク化を押し進めるという取組は行っておりません。

ただ、場単独では、夏祭りでありますとか、競輪祭のときのアリーナイベントなどを実施しております、今後もこういったイベントを通じてファミリー層の拡大や親しみやすいレース場づくりに努めてまいりたいと考えております。

あともう一点、レース場が暗いという御指摘でございます。メディアドームでも4階の競輪を見れる場所であるとか、1階の場外売場とか、いろんな場所がございます、特に1階の場外専用の車券売場ですね、こちらが委員御指摘のとおり、確かに全体的に暗い感じがするという事で、我々もここをどうにかしないといけないという認識は持っております。

特に、建設から数年が経過しておりますので、そろそろリニューアルの時期を迎えているのではないかと考えておまして、ただ一方で、ネット販売というのが拡大していく中で、年々場外売場の売上げとかも落ちていっておりますので、そういった場外にどれだけの費用をかけるのかとか、あと近い将来本体の大規模改修も予定しておりますので、どの時期にそういった改修をやるのかということにつきましては、今後内部でももう少し議論させていただければと思っております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 委員から御質問がございました夏の対策について、あと遊具の安全性について、そして入場料についてでございます。

まず、夏の対策についてですけれども、まずハード的な対策といたしましては、言われたように、コミュニティーパーク、空調設備を完備しております。

そして、グリーン内、グリーンは広いですが、ここにはシェルター、屋根とか屋根付きの通路を整備する予定でして、これが避暑地とか休憩場所の代替にはなるのかなと思っています。

また、屋外のモーヴィには水を使った設備も常設することにしております。

また、臨時的な対策ですね、物すごく暑いので、こういった臨時的な対策としては、モーヴィとかグリーン内にミストとかシェード、パラソルなんかの設置は随時できるかなと思っております。

また、ソフト的な対策としても、夏場に水や氷を使ったイベントを考えて楽しんでもいただくとか、工夫はできるかなと思っております。

次に、遊具の安全性について、こちらは御指摘のとおり、維持管理については確実にチェッ

クをして安全に使っていただけるように徹底してまいりたいと思っております。

あと次に、入場料についてです。今回の事業がボートレース振興会と株式会社ボーネルンドが業務提携して業界全体で進めている事業でございます。その中でお互いにボーネルンドと振興会は商標使用承諾契約というのを結んでおります。この中で品質保持については規定がしっかりされていますので、これを守りながらやるんですけれども、入場料についても、モーヴィは300円、グルーンは無料と規定がされておまして、このとおり運営することになるかと思えます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 富士川委員。

○委員（富士川厚子君） ありがとうございます。

競輪場は改修とかもあるということも言われていましたけど、確かに1階の入ったところは本当に何か暗い感じがしますので、やっぱり女性でもちょっと怖いと思うとなかなか次行こうと思えないのかな、今はネットでも買えますけど、そう感じる方もいらっしゃるんで、親しまれるレース場という部分でまたぜひ改修のとき検討していただけたらと思います。

あと、さっきモーヴィとグルーン、モーヴィのほうが水があつたりとかパラソルとか後で置けるということなんですけど、子供たちは水の中に入って遊べたりするんですけれども、親は1時間も2時間も待っているというのは本当に、それで帰って、子供の遊びの時間を遮ることもあり得ますので、そこでかき氷を売るとか、何か冷たいものを販売するとか、パラソルも少ないと本当に取り合いになって、やっぱり暑さっていろいろの原因になりますので、皆さんが本当に楽しめて遊べるような工夫はしっかりしていただけたらなと。足湯じゃないけど、足だけ親でも水につかれたらそれだけでもちょっと違うかなと思いますので、何かしら本当に対策をしていただきたいなと思います。

遊具の安全性は分かりました。ボーネルンドさんもやっぱりいいものをいつもつくられているというのは私も承知していますので、ぜひまた子供たちにいい遊具を遊んでいただきたいなと思います。

あと入場料ですけど、モーヴィが300円で、これは子供も大人も一律1人300円ということでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 一律300円になっております。

○委員長（渡辺修一君） 富士川委員。

○委員（富士川厚子君） ということは、夏休みとか気に入って何回も行こうって、家族4人で行こうと思ったら毎回1,200円かかるということですよ。

あそこの小倉にある元気のもりとかは1回100円とかですよ。だから、保護者からお金を取るか、どちらか無料にするか、夏休みのときは子供、未就学児は無料にするとか、年間パスポートをつくるとか、そういうのは難しいんでしょうか。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 まず、全国的なボーネルンドさんの直営の分をお伝えするんですけども、通常の同等のレベルの施設が全国では1,000円を超える入場料をいただいているところを、ボートレース場につくるということで今回ボーネルンドさんと協議して300円にしたという経緯もございます。

また、今既に運用している他場のモーヴィ、グルーンの状況を見ますと、かなりお安いので、かなり入場者が多くて、今のところ予約制で入替え制にすることを考えています。

そういった中でも、もちろん市内の市民の皆さんとか、若松区の皆さんに使っていただきたいので、夏休みの期間に例えば学校に無料券配るとか、優先して使えるような工夫は考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（渡辺修一君） 富士川委員。

○委員（富士川厚子君） そうなんですね。1,000円とか、確かにキッザニアとかもすごい高いですもんね。そう考えたら300円って安いのかもしれないし、予約制ですということできき言われたように、夏休みだけ北九州の子供だけのチケットを配るとか、あれはトイレをつくってくれたボートレース場だよって連携してチケットを配るとかしてもいいのかもしれないなと、今お話を聞きながら思いましたけど、北九州市にあるから市民の方が夏休みだけでも恩恵を受けられるような施策ができればなと要望します。

あとグルーンは無料で、こっちも夏になったら人がいなくなるんじゃないかなとか思いますけど、芝生広場に大きなプールを置くとか、これだけの敷地があるから、四季を問わずに皆さんが楽しめる場所にしていただきたいなということを要望して終わります。ありがとうございます。

○委員長（渡辺修一君） ほかにございませんか。菊地委員。

○委員（菊地公平君） 経営の部分に関して少し質問させていただきたいと思います。

現状計画等を立てて順調に経営はされているということで安心しております。市の財源としても非常にありがたいものだとは認識しておりますので、このまましっかりと売上げを上げて利益もしっかり出していただければと思っております。

ただ、その中でちょっと質問なんですけど、その売上げとか利益とか、こういったものの影響を受けて増減するとかというふうな事業経営上のリスクとかがあればちょっと知っておきたいなというところと、例えば実際に車券、舟券を購入していただいている方々の属性であるとか、年齢層であるとか、そういったものでも何となく先行きであったりとか見えてくるものがあるんじゃないかなとちょっと思っていますので、例えば利用が高齢者に偏っていったら、この先ちょっと人口が減っていく中で売上げの影響を受けるんじゃないかとか、そういう予想ができるんじゃないかなとも思っていますので、そういった顧客の動向とか、そういった属性とか、そういったもので何か傾向とか分かるようなことがあれば教えていただきたいと思います。お

願います。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 全体的な売上げの動向というところをお答えさせていただきたいと思います。

一旦は競輪も競艇もかなり売上げが落ち込んだんですけれども、やはりコロナがあって、そのコロナ禍でなかなか外出できない等がありまして、またネット環境というのがすごい整ってきているということもあって、ネット投票がかなり伸びているというところがあります。

それにも関連して、やはり経済情勢とか社会情勢、やはり景気にかなり左右して売上げが連動しているんじゃないかと我々のほうでは推測しております。

あと、それぞれの属性については、それぞれの事業課長から説明させていただきます。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 まず、電話投票、ネット投票が今売上げの84%を占めています。こちらの属性は把握できておりますので、お答えいたします。

まず、男性が90%、そして年齢別でいきますと、20歳代から40歳代が合わせて70%、地域別で見ますと、九州地区の方が多くて、近畿地区の40歳代が多いということになっています。

逆に低いのは、20歳代とか関東地区の方の登録者というか、御購入者が少ないという状況が出ております。

ですので、一応こちらを踏まえまして、ボートレース若松ではウェブ広告、若者に響く、遠方の方にも響くようにウェブ広告、検索連動型広告、こちらをちょっと今後考えてみたいなど思っております。

また、売上げが最近上がっていますミッドナイトレース、若松では年に約30日やっておりますけれども、ミッドナイトレース特設のサイトをちょっと立ち上げようかなとか、あとはキャンペーンCMとかエントリーフォームとか、登録者が増えるような使いやすい仕様に変えたりとか、こういったことでファン増に努めたいと考えております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 競輪事業課長。

○競輪事業課長 競輪の属性についてお答えいたします。

まず、ネット投票をされている方の属性なんですけど、申し訳ございません、ネット投票は民間が運営しているものですから、なかなか情報の開示がされていなくて、その年齢とか、そういうことが把握できておりません。

ただ、こちらについてもやっぱり委員がおっしゃるように、いろんな分析をするのに必要ですから、中央団体を通じて開示するように今交渉しているところでございます。

あと、場内にお見えになっているお客様、こちらはアンケート調査等を数年前ですが実施しております、これは通常開催だったものですから、もう50歳代以上が7～8割を占めるというかなり高齢化が進んでいる状況でございましたので、やはり競輪のファンの若返りというのは必要と思っておりますので、若い方に来ていただけるようないろんなイベントであるとか、

そういった施策を今実施しているところでございます。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） それぞれがそれぞれに分析しながら取り組んでいかれているという状況が分かりましたので、ちょっと安心したところでございます。引き続き頑張っていただければと思います。

幾つか今要素として、この車券の金額そのものというか、世の中の物価の動向とかが何か影響を受けるものが可能性とかがあるのかというのは、最近の社会情勢の変化とかの中で気になっているのが1点と、あとインバウンド対応とかで今市全体も一生懸命やろうとしている中で、外国人が買うこととかに問題がないのかとか、例えばそういったインバウンドで競輪ツアーとかボートツアーとかやったら意外と響くような要素があったりするんじゃないかなとか、思いつきではあるんですけども、そういった可能性もあるんじゃないかなと思っていまして、その辺ちょっとお考えをいただければと思います。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 今委員がおっしゃったように、インバウンド客に来ていただいて売上げにつながるというのはすごく面白い取組だなとは思っています。

ただ、おっしゃったように、外国によっては日本に来て買うことが賭博行為になるといって法律で禁止されたりしているところもあったり、あとやはり我々が受け入れるときに、通訳であったりとか案内表示を外国語に変えるとか、そういったいろんなちょっと難しいなと思うところもあるんですけども、やはり旅行代理店みたいなところがそういういろいろ取りまとめを行って、小倉競輪とか若松ボートに来たいという話があれば、今後そういう部局と一緒に協議していきたいなとは思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） 物価の話、影響とかの可能性はないならないでいいんですけど、お願いします。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 すみません、ちょっと答弁が漏れていまして申し訳ありません。

物価は、やはり生活にお金を費やさなきゃいけないという面であれば、娯楽費とか余興費が減ってってしまうというところを見れば、もしかして一つ間接的に影響があるかもしれないんですけども、来場している方々とかに聞いても、特にその辺で買い控えをしているとか、そういうような情報は特にないかと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） ありがとうございます。大体状況は分かりました。

インバウンドに関しては、意外と調べてみたら、もしかして次の大きな顧客が眠っている可能性も実はあったりするのかなという気がちょっと何となくしていて、日本人もラスベガスに

旅行に行ったらみんなやりますよね。そういう感覚でうまく旅行代理店とかと組めれば、次の新しい鉱脈が見つかる可能性もあるので、もし余裕があればそういったことも検討していただければと思います。

あともう一点だけ、今回も繰出金をずっといただいております。200億円も出していただいて非常に感謝しております。

過去の繰出金の表を先ほどいただいたもので見ると、過去繰出金を全くしていない時期とかもあったので、どういった事情でそうされていたのかとかというのと、今回200億円繰り出していただけたということは、当然200億円剰余金というか、ため込んでいた分があったということなんだろうと思っていますが、このため込んでおくことに何か問題があったりとか、そういう事情があったりとかがあればちょっと教えていただきたいなと思います。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 2点ほど御質問をいただきました。

繰り出しができない時期というのが過去にございまして、そこはやはり売上げが伸びてなく悪い状況で、開催をするにおいては選手賞金であったりとか、開催する経費が必ず必要になってきますので、それと相殺するとやはりなかなか収益が出てこないというところで、繰り出しをというところまでにはいかなかった状況でございます。

それと、あとため込んで影響があるかと言われると、先ほども申したとおり、我々は今後いろんな整備とかも出てきますので、持っているということにこしたことはないかなと思っています。

ただ、やはりたくさん積み上げが出てくると一般会計に繰り出すというところが我々の使命でもございますので、そこは財政・変革局と協議して取り組んでいきたいと思っています。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 菊地委員。

○委員（菊地公平君） ありがとうございます。

当然売上げが伸びなかった時期があったということで承知いたしました。だからこそ、先ほど言ったような形で皆さん努力されているんだということも含めて認識いたしました。

ため込むことによる影響はないということであるんですが、非常に重要な財源でもありながら、ただ我々議会というか、市の側もあまりそちらの売上げに依存することなく、今後距離感も含めて冷静に対応していきたいなと思います。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） 公営競技局には50億円の毎年の繰入れ、それから基金200億円ということで、高く評価しております。北九州市の財政、大変厳しいという中で頑張っているということには評価しています。

地元貢献ということで、ボートの場合にいろいろな地元貢献のための設備を充実させるとい

うことですが、私はこれもボートの収益で還元するということで大事なことだと思うけど、この周辺というか、やっぱりボート場のイメージを変えるということで、例えば言いますが、周囲に公園をつくるということでは、これをやっぱり小学校等々で利用してもらうためには、あんまりボート、ボートということでは抵抗のある家庭もあるでしょうから、たまたまボート場の横に公園があったというような発想で、そして小学生とか学校に利用してもらえというような発想が必要だし、通りというか、まだまだ周囲の通りが開かれたというような感じがしない。いろいろな木を植えたりとか、それから壁面をいろいろ工夫するとかということで、誰でもが利用しやすいような、公園についてはたまたまボート場の横に公園があったというような発想が私は必要かなと。そしたら気軽にというか、誰でも利用しやすいというような気がしておりますので、その辺の考えがあったら聞きたいと思います。

それから、競輪については、メディアドームがたしか30年で300億円借入れが、令和8年に完済できるということですが、今後のメディアドームの在り方、せっかくの屋内競技場ですので、競輪ということ考えた場合に、今でもコンサート等々利用されていると思いますが、今後の経営の仕方、そして基本的にこの施設を生かして、公営競技ということではなく、施設を生かした収益事業ということで今からは考えていかななくてはならないと思っておりますが、その辺の考え方があれば説明していただきたい。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 委員から広報についてお尋ねがございました。

ボートレース場を運営している者としては、正直なところボートがやりましたとアピールしたいのは正直なところなんですけれども、言われるとおり、広報の相手さんによっては響くように広報を打っていかないと届きませんので、御指摘を踏まえて今後PRしていきたいと考えております。

○委員長（渡辺修一君） 競輪事業課長。

○競輪事業課長 メディアドームを今後どのように活用していくかという御質問でございました。

メディアドームは今でも競輪開催以外にもいろんな様々なイベントで周辺の方とか市民の皆様に御利用いただいているところでございます。特にアマチュアスポーツでありますとか、地域活性化に資するイベントにつきましては、アリーナの使用料を優遇するなどして活用を促しているところでございます。

ただ1点だけ、競輪の開催が決まらなとなかなか使用をするのが難しいといいますが、なかなか日程が決まらないといったような問題、課題もございますので、今後、御相談があったときにはこちらといたしましても協力させていただいて、どんどん使っていただけるような施設にしていきたいと思います。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） 競輪の開催日が決定されるのは年度初めになると思いますが、それと年間どのくらいの日数を競輪で使っているのか。

○委員長（渡辺修一君） 競輪事業課長。

○競輪事業課長 まず、競輪の開催日程なんですけど、実は年度じゃなくて半年ごとに決まっております。ですから、例えば直近で言いますと、令和7年10月から来年の3月の開催でありますと、今度の8月中旬ぐらいに決定するということで、なかなか直前じゃないと決定しないので、そういった部分では使い勝手の悪い部分がございます。

競輪の開催日数でありますけど、ここ4年から5年は大体75日前後です。

ただ、前検日といいまして、選手はその前日とかに入ってまいりますので、大体競輪関係で少なくとも100日ちょっとは潰れるような形となっております。以上でございます。

○委員長（渡辺修一君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） 競輪についてといいますか、メディアドームの使い方、今後はなかなか決めにくいというところがありますが、その辺は競輪事業者としっかりと話をし、早く決められるというか、あの施設をどうやって生かすか。300億円かかっているわけですよね、これは。これをどうやって生かすかということで、いろいろと生かし方があると思いますが、私は今若者に物すごく人気があるeスポーツとか、eスポーツのメッカにするとか、やっぱりそういう取組を考えていく必要があるなと考えていますが、その辺の事業としてのメディアドームをいかに使うかということの考え方があれば聞きたいと思います。

○委員長（渡辺修一君） 公営競技局次長。

○公営競技局次長 eスポーツのメッカという御提案ありがとうございます。

いろんなものがあると思います。昨年もスポーツの関係で、著名なスポーツ選手たちがスポーツを子供たちに教えるとか、今までにないような基軸の取組を行いました。

子ども食堂とかは一般的なものではありませんけど、そういったものから去年のようなフェスティバル的なものもやって、eスポーツの分野とかもいわゆる先端の取組でございますので、やっぱり親しまれる場ということになれば、今までにないような各種取組をやってみるというのは非常に大切なことだと思います。いろんなアイデアがあると思いますので、今後それらをいろいろと検討していきたいとは思っております。

○委員長（渡辺修一君） 香月委員。

○委員（香月耕治君） 公営競技ということに関しては、まだまだある意味壁があると思っておりますが、そういういろんな使い方で垣根を取っていくという努力が必要ですし、若松ボートに関しては、ボート場周辺の整備。行って何となくそういう臭いがするなということじゃなくて、誰でも利用できるなというような努力をしていかないと、近くに行ってもちょっと寄ってみようかなというのはまだまだできていないと、そういうふうに感じています。

○委員長（渡辺修一君） 公営競技局次長。

○公営競技局次長 先ほどからありがとうございます。本当にいわゆる競輪場、ボートレース場、先ほど委員からもいろいろ御発言がありましたけど、昔ながらのというのはやっぱり払拭していかなきゃいけないというか、新しい形のボートレース場とか競輪場とか、そういったものをつくって行って、幅を広くしていく、顧客を増やすとか、ファンを増やすというのが私たちの命題だと思いますので、ボートレース場の話でいけば、香月委員が言われたようなモーヴィ、グリーンをただつくるということじゃなくて、その周辺のサイン関係とか雰囲気とか、そういったものも今後PR共々検討していきたいと思っております。

○委員長（渡辺修一君） ほかにございませんか。井上委員。

○委員（井上しんご君） それでは、全部で5問お伺いします。

まず、1問目がプレーパークの件です。

プレーパークのグリーンの一般開放の部分で、自然体験エリアというのがあるんですけども、自然の中で遊べるというので非常に面白いと思います。

以前私が所属していた保健福祉委員会で世田谷区の羽根木プレーパークを訪問させてもらったときがあったんですけども、北九州市にもプレーパークをつくるというときに、市内現状ではプレーパークという木登りとか火を使った体験とか、なかなか通常の公園ではできないような活動ができるということで、北九州市は年何回かのイベント的なものであるとか、常設というのはなかなか難しいという状況が、人も要ということもあって難しいという形です。

今回は、基本このエリアにはコミュニティースペース棟もあったりとか、人が多分この付近にはいらっしやると思うんですけども、そうした羽根木プレーパークのようなふだんの公園とかではできないような火を使った火遊びとか、火をおこしたりとか、また、木登りとかということもできるんじゃないかなと思ったんですけど、この点について見解を聞かせてください。

2点目です。先ほども香月委員からも言われていますけども、周辺のイメージアップというか、奥洞海駅の真ん前ということで、よく東京ディズニーランドとかだったら、駅を降りてディズニーランドに行くまでの間の動線が非常にわくわく感をそそるようなつくりであったりとか、その周辺も植樹とかいろんなキャラクターとかって非常に工夫してあるようにイメージがあります。

当然競艇場に行けばこのすばらしい施設があつていいと思うんですけども、今お話を伺うと、この施設も非常に人気だということで、予約制で人がいっぱい来るとということで、例えばJRで来る方が駅からここに行くまでの動線が草ぼうぼうであったり、ごみがいっぱい捨ててあったりという感じだったら、どうしてもそのわくわく感がそがれてしまってもったいないし、そういった動線の道路をきれいにするとか、また、車で行かれる方の動線、道案内が行きたさを促すような部分とか、そういう周辺の動線の意識づけとか、その辺のお考えがあれば聞かせください。

次に、3つ目です。先ほど菊地委員からも言われていましたけど、インバウンドの方とか、自分も国内に住んでいる方の友人が北九州市に来たときに、若松競艇に行きたいとリクエストがあって案内したことがあるんですけど、若松競艇は競艇場でも結構上位の売上げがあって、非常に知名度があるということで、やっぱり行ってみたいと。実際どういうところかに関心があると思うんです。

そういった実際日本に来られた方がこちらに旅行代理店を通じてツアーというのも非常にいいと思いますし、ちょっとお伺いしたのは、日本は賭博が禁止されていますので、ネット等で、今ネットが8割、9割ということで、海外のカジノでも禁止されていますけども、賭博とかそういうギャンブルが合法的な国にあっては、例えば海外からネットで日本の車券とか舟券が買えるということは物理的に可能か、そういったお客さんが業界としていらっしゃるかどうかわちょっと教えてください。

次に、令和7年度200億円の繰り出しをされています。これまでずっと50億円を定期的に毎年繰入れをされて、非常に助かっていたという話です。

先ほども議論があったんですけども、これまでこの200億円を超えるお金を内部留保というか、恐らくためていた訳が何かあったんじゃないかなと思うんです。例えば競艇場の大規模改修とか、全面的に建て替えるときの費用であるとか、何か目的があったためていたのかなと思うんです。今回一般会計が非常に厳しいということで、また、行政からの依頼で今回200億円を基金という形でなっていると思うんですけども、そういった本来の競輪、競艇の事業の将来的な維持更新とかという部分での影響はないのか。先ほどは大丈夫だというお話だったんですけど、その点についてちょっとお聞かせください。

最後です。全国の競艇場をずっと見ると、若松競艇も非常に上位で、前に自分が見たときは4番目であったりとか、2024年度は7位となっています。上位が大村とかずらっときていますが、当然大きいレースがあったりなかったりという部分でも売上げも変わってくると思うんですけども、大体、大村とか住之江とか、その辺は上位に来ていると思うんです。

今後、若松競艇もぜひもっともっと有名なレース場になってほしいと思うんですけども、この差というか、常に上位の競艇場とかの差が、ただレースを取った取らんということでなくて、特別に上位のレース場はお客さんに対するサービスがいいとか、そういった魅力ある取組をやっているためにずっと上位をキープしているのか。今後若松競艇がさらに上に行く場合に、特別なナイター専門のサイトを立ち上げようとかということで、また、若い世代にというのは各場の工夫であると思うんですけども、そこら辺についてどのように、この差というか、この上位の1からトップ10の差というのは何があるのかお聞かせください。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 グルーンでの自然体験について、あと奥洞海駅からの動線の整備について、また、ボートレースに関するインバウンドの関係と、あと最後、売上げ上位の場との

違いについて、4点お答えさせていただきます。

まず、グリーンでの自然体験については、火を使ったものですか木登りは、無料で入れる施設でもありますし、ちょっと安全性のことを考えて、そちらは今のところ考えておりませんが、スタッフは常駐していただくように考えておりますので、イベントなどをやっていろんな体験ができるようなことは考えてまいりたいと思っております。

次に、奥洞海駅からの動線の整備について、今ボートレース場の駐車場側は駐車場のみですので、少しちょっと殺風景な感じはするんですが、モーヴィ、グリーンができますとかなり緑が増えますので、雰囲気は大分明るくなるかと思っております。

あと、本場の来場者が今減少していることでこのボートレースパーク化の取組を行っているという部分もありますので、今後活性化のために場内の整備はきちっと考えていきたいと思っておりますし、来場の傾向を見て周辺の施設とか連携、J Rとの連携を進めてまいりたいと思っております。

あと、ボートレースに関するインバウンドについてちょっとお答えできることを説明したいと思います。

委員がおっしゃられるように、ボートレースは海外の方にとってもとても魅力あるコンテンツで、可能性を秘めている競技だなというのは私も感じております。

まずは、今外国人の方にボートを知っていただく、認知していただくために、ホームページでは4言語対応をしております。ボートレースの基礎知識とかレース場の施設案内などは行っております。

そして、外国の方にレースに来て楽しんでいただくには、多言語対応によってボートのルールとか舟券の買い方をしっかり御理解いただくことがあることに加えて、先ほども申し上げたように、海外では賭け事が禁止されている国があります。中国とか台湾では国営の宝くじ以外は賭け事ができないようになっているというのを把握しております。マカオだけはカジノができるというのを聞いております。

そういったことですか、出入国の際に現金の持ち出しの規制などがあって、稼いでも本国に持ち込めないという、これも国によっていろいろ条件があるので、こういった部分の複雑な課題があることで、今のところ積極的に具体的に取り組んでいるということには至っていないというのが現状です。

とはいいいながら、ボートレース場を海外の方に発信していきますと、北九州市の認知の向上にもつながりますし、観光客の皆様にとっても、北九州市にお越しいただく訪問先の選択肢が増えるということですので、ボートレース場を周知して観光振興やインバウンド施策のツールとして活用していただけるような動きはしてまいりたいと思っております。

あと最後に、売上げ上位の場との違いについてです。1位から7位まではナイター場が占めている状況です。大村さんもナイター場なんですけども、大村さんが売上げが高い理由に1つ

あるのが、ポイント制度です。舟券の購入額に応じてポイントをつけて、それをちょっと舟券購入に還元するという取組を行われているというのが強いんですけども、今ちょっとギャンブル依存症の関係もあって、なかなかそれが積極的にできない状況ではあります。今のところ大村さんはやはりいろいろ取組をされているし、ポイント制についても強い理由にはなっているのかなと思っております。住之江さんは、やっぱりボートレースのメッカということで、年末には大勢の方が集まるというボートレースの代表的な場ということでやはり強い部分があるのかなと思っております。若松も今後誘致できるように頑張ってもらいたいと思います。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 2点の御質問がありましたので、お答えさせていただきたいと思います。

今回基金に200億円の繰り出しをする予算を計上しておりますが、200億円をため込んでいた何か目的があってというところなんですけれども、こちら我々過去の売上状況とかを見ていまして、売上げに関してはかなり変動が大きくて、その中で経営を安定しないといけないというところがありましたので、繰越利益剰余金に関しましてはある程度の確保が必要なのではないかと考えておりました。

ただ、やはりここ数年は売上げも好調ですし、単年度の収支も伸びつつありますので、このタイミングで繰越剰余金を出すのは可能じゃないかと判断をして出させていただいております。

あと、今後の施設整備に関して大丈夫かという御質問がありました。こちらに関しましては、単年度で出た利益剰余金を計画的に建設改良積立金というものに積み上げておまして、令和5年度末で申しますと、ボートレースに関しましては170億円程度積み上げておりますので、今後の改修計画に対しても大丈夫かと考えております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 井上委員。

○委員（井上しんご君） ありがとうございます。

周辺環境の整備についてです。当然有名なラスベガスとかマカオとか、そこはもともとのイメージ、マフィアイコール賭博、カジノというイメージから、ショーであるとかお芝居とかミュージカルという部分で非常にその町全体が変化しているというイメージがあると思います。

今後、当然お客さんもこれから来てくれるということになれば、地域にお住まいの方の御理解というか、それが非常に大事だと思っております。

ですから、競艇場があるからこそ、その周辺エリア、若松地域も非常に明るくて住みやすいと思ってもらえるようなそういった場外の部分でぜひ取組を、自分はその辺の会社で働いていましたので、場外がそこまできれいではないイメージがありましたものですから、地域の方たちの今後の理解を広めるためにもやってもらいたいと要望します。

2番目です。海外の対応です。

やっぱり国内でもまずネットに入って、買って、実際行ってみたいというふうになると思う

んです。当然そういったギャンブルが合法的な国の方を対象にですけども、まず海外から日本の舟券を買って、ぜひ本場で見てみたいとか、音を聞いてみたいとつながってくる部分もあると思うんです。まだまだこれからの取組だということでしょうけども、ぜひ業界としても、まず海外でのネット販売、そこから実際にリアルに来てもらえる方を増やすという部分も研究してもらいたいと思います。これは要望です。

次に、あと今回も北九州市に繰り入れるとか、基金の200億円とか、市民全体に対する還元というのは非常に多くて、それで助かっている部分もあると思うんですけども、一方でやっぱり実際そこでボートレースに参加していただけるお客さんとか、舟券を買っていただける方に対する還元というのもやっぱり大事だと思うんです。お客さんが、ファンがいなければ立ち行かなくなるということで、大村についてもそういったお客さんへの還元がどうなのかという問題があるのかもしれませんが、北九州市としても直接お客さんにも還元して楽しんでもらえるような部分も、今回は子供たちとか、そういう地域還元ですけど、そこもぜひ本質的な部分でも強めてもらって、やっぱり若松はすごいなと。まだまだ上位7場のナイターというのが上位だというのはあるんですけども、その中での差というのは、恐らくそういった各場の工夫もあると思うんです。私も昔下関競艇場でレースのあれを聞いて黒板に写すバイトもしたことがあったんですけども、当時は下関競艇場も非常にぼろぼろで、なかなかそういうイメージも悪かったんですけど、今見たら、結構3位とか、非常に頑張っていると聞いてびっくりしています。ですから、若松もそういうふうには上位に行ける、まだまだ上に行けると思いますので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） 私からも数点お伺いします。

まず、公営競技局による地域貢献ということで、本当にありがたいなと思っております。

その中で、今日御説明いただいた以外も、最近では場内で野菜をすごく安く販売していただいたりして、物価高の中、そういった身近な地域貢献も非常に私は大事じゃないかなと思っておりますし、いいことだなと思っていましたので、そういったこともぜひ続けていただけたらと思っております。

質問としては、ちょっと重なりますけれど、私も海外のお客様に対する、例えばグアムに行ったらドッグレースがあったりとか、要はいろんなほかの観光と絡めて、競艇だけに行くというのではなくて、夜の北九州市は夜景観光とかもありますから、そういったものと一緒にして、長時間いるとやっぱりはまって大変なことになってしまうこともありますので、少し楽しんでいただいてというようなパッケージが何かできればいいなと思っております。

旅行会社とかで連れてきていただければ、そういうパッケージをつくっていただければ通訳さんも必ずつくと思いますし、オリジナルで個々に対応するというよりも、そういったことを少し進めていただくと、最後に花火とかも、大きなレースがあるときは私の家から花火が見え

るんですけど、花火とかも見られますし、いろんな意味で外国の方にも楽しい場所になるのではないかと。ですからインバウンドの対策、やり方を先ほどからも御意見をいただいていますけれど、私も以前からそう申し上げていて、ぜひできればなと思っておりますので、もしこれも何かあればおっしゃっていただければと思います。

それから、これも先ほど周辺のことを言われていましたけれど、まず道路から、国道199号から若松ボートがちょっと分かりにくいんです。どこでどう曲がるかと。一応サインは出ているんですけど、今度このボートパークができます。ですから、何か楽しいイメージのサインが、199号からここで曲がるんだ、ここにあるんだというのが分かるような形をぜひ取っていただきたいなと思います。

それと、例えば、市営バスとか西鉄さんとかも含めてラッピングバスとかでこのボートパークができたんだということをぜひアピールをしていただけたら、多くの方に知っていただけるのではないかなと思います。

それと、J R も奥洞海駅と言うんですけど、ここで降りていいのかなと。若松の場合は駅が幾つかあって、少し寂しい感じが正直しますので、J R さんをお願いして本当はしていただくのが一番ありがたいんですが、J R さんがもししないということであれば、何かサインだけでもここにボートパークがありますよ、ボートレース場もありますよというのを中から電車が着いたときに分かるような形にさせていただくと、ここなんだなというのが印象づけられるのではないかなと思います。

それからあと、本当の理想は奥洞海の駅からぬれずに行けるというのが理想であるかと思います。なかなかすぐに難しいかなとも思いますけれど、できるだけぬれないところの動線をつくる。道路も通っているんで、トラックとかも通るから高さが必要だったりとか、様々にあると思うんですが、その間だけは仕方がないにしても、それ以外のところを通路のところにときたら日よけがあると、日よけというか雨よけというかがあると行きやすいな、夏も暑いときも行きやすいし、雨が降るときも行きやすいなと思いますけれど、その点の見解も教えてください。

あと、地域貢献ということで、いろんな有名な選手を呼んだりということをしていただいて、先ほどはサッカーは中澤選手ということだったんですが、できることならば地元の有名なサッカー選手、出身のサッカー選手とかもいたりしますので、そういった地元の特に特命大使であったり、もしくは特命大使にはなっていないけど地元出身の方を使っていただけるといいかなと思いますが、その点も見解をお聞かせください。

あと、これも先ほど出ましたけれど、自然体験エリアがある意味で子供の居場所になるのかな。特に不登校の子供とかがここだったら行けるということであれば、何かしらちょっと休めるところがあるといいなと思いますが、そのあたりの考え方を少しお聞かせいただけたらと思います。以上です。

○委員長（渡辺修一君） ボートレース事業課長。

○ボートレース事業課長 まず、インバウンドについての工夫、そして大通りからでも分かる表示とか、奥洞海駅の整備、あと地元選手によるPR、そのほか御質問をいただきました。

まず、インバウンドに関する工夫ですけれども、先ほどからも議論にありましたように、直接舟券を買っていただくような受入れがすぐにはちょっと難しいという状況はあるんですけれども、イベント的なことで立ち寄っていただくということの検討はいろいろできると思います。ボート場の雰囲気を楽しんでいただいて、また夜間ですし、花火も上がりますし、そういったことを考えて観光部門とも話をしてみたいと思っております。

次に、表示です。今確かに国道199号からはボートだけの表示ですし、今度はパークの表示も加えたりとか、いろいろ広報については、もうすぐ完成しますので、今後工夫してみたいと思います。

そして、駅からの動線の整備です。こちらについては、今入場者数というか、利用者数からいってもちょっと少ない状況ではあるので、なかなかすぐに屋根をつけるというのは難しい部分はあるんですけれども、来場者とか集客の状況を見ながらJRとも話をしていきたいなと思っております。

そして、地元選手によるPRです。今は選手、ボートレーサーは1,600人いまして、福岡が地元の選手もたくさんいます。ふだんから選手が休みの日にはイベントに来ていただいてトークショーとか、直接ファンと選手が触れ合えるようなイベントは日頃やっております。お客様にはとても好評ですので、こういったとても実績のある選手とかスポーツ選手に来ていただいてイベントをしていきたいなと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 総務課長。

○総務課長 不登校の子が行けるというところをお答えさせていただきたいと思います。

実際教育委員会で不登校の子たちが行けるというところが幾つかあると思うんですけれども、出席日数にカウントされるとか、結構ルールがあると思うんですけど、そういったところになるとなかなか難しいかなと思うんですが、そういうがっちりしたところではなくて、誰でも遊びに来れるとか、そういったところであれば検討できるかと思いますので、教育委員会と調整したいと思います。

また、さらに言いますと、最近試験前とかに高校生とか中学生が図書館とかいろんなところで勉強して、なかなかその場所がないというようなところもあるかと思いますので、そういったところも含めて教育委員会とか、あと子ども家庭局とかと一緒に話を進めていきたいと思っております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 地域貢献室長。

○地域貢献室長 2点、ラッピングバスの御提案がございました。今現在市営バスに地域貢献の広告として、市民の暮らしにボートレース、競輪が役立っていますよといった内容のラッピ

ングバスを交通局にお願いをしております。

あとラッピング広告と、それと車内におきましてはデジタルサイネージ、それからバスのベンチにもそういった地域貢献に関する広告を出しております。

今後、モーヴィ、グリーン等の地域貢献エリアができるということで、ここはまた事業課と相談して、このラッピングの中にそういったものをPRするといったことも考えてまいりたいと思います。

それから、もう一点、スポーツの関連で、私のほうが所管してメディアドームで有名選手によるスポーツ教室を実施しております。地元ということで言うと、これまでだとバドミントンの潮田玲子選手に講師をお願いしました。今後も地元の出身で有名な方で講師を引き受けていただける方がおられれば、そこは検討してまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（渡辺修一君） 三宅委員。

○委員（三宅まゆみ君） 様々にお答えいただきましてありがとうございます。

地域貢献というところで様々に質問させていただきました。市民に身近な場所であり、そして子供たちにも高齢者にも居心地のいい場所をぜひつくっていただきたいと思っています。

特に今ややっぱり学校に行けない子供たちが正直増えていて、どこか居場所というのが必要なんです。一つの居場所にもなり得るのかなと。最初から不登校でカウントができる場所というのは少しハードルが高いかもしれませんが、でもやっぱり世田谷区とかは公園の横にちょっとした施設があって、そこにだったら行ける、その公園だったら行けるという子供たちもいた話をお伺いしています。ですから、そういった場所が今回そこまで今はまだならないかもしれないけど、でもそこに居場所があるんだよという場所をまずはつくっていただいて、それから本当にそこが居心地のいい場所であれば、そういうふう to 今度進化形にしていくということも私は大事じゃないかなと思っています。ぜひいい施設にしていきたいと強く要望して終わります。

○委員長（渡辺修一君） ほかにありませんか。

ほかになれば、以上で所管事務の調査を終わります。

本日は以上で閉会します。

経済港湾委員会 委員長 渡 辺 修 一 印